



「練馬区モデル」を さらに前へ

2月4日に第一回区議会定例会で前川区長が所信を表明



はじめに

今月1日、都政に大きな足跡を残した石原慎太郎・元東京都知事が逝去されました。私は、都の幹部として、5年の永きにわたり知事を補佐し、仕事を共にしました。終生忘れ得ぬ方です。謹んで哀悼の意を表します。

新型コロナウイルス感染症の区内感染者は昨日までに2万7862人にのぼり、103人の方がお亡くなりになっています。改めて、深く哀悼の意を表し、現在も療養されている皆様の一日も早い回復を祈念申し上げます。

オミクロン株の急速な感染拡大により、世界全体の1週間当たり感染者数は2200万人を超えています。

国内では、年明けから新規感染者数が急激に増加し、国は、広島等3県に続き、東京都をはじめ1都12県に、まん延防止等重点措置を適用しました。その後、更に19道府県を追加し、全国の7割を超える35都道府県が対象となっています。

都内では、1週間平均の新規感染者数が、1月5日の135人から2月2日の1万6075人へと激増し、これまで経験したことのない危機的な感染状況が続いています。

オミクロン株は感染力が強い一方で、重症化リスクが低いとも言われていますが、感染者の増加は、医療提供体制や社会インフラの維持に、更に重大な影響をもたらします。区民の皆様には、ご自身だけでなく、ご家族や周囲の方を守るためにも、引き続き、不要不急の外出は極力控え、

マスクの着用、手洗いや消毒、こまめな換気、密閉・密集・密接の回避など、基本的な感染防止対策の徹底をお願いします。

令和4年度当初予算案と 令和3年度12月補正予算

令和4年度当初予算案は、「区民とともにコロナ禍を乗り越え、練馬の未来を拓くため、『練馬区モデル』を進化させる予算」と位置付け、策定中の「改定アクションプラン」に掲げる施策を中心に編成しました。一般会計予算額は、2912億円、昨年度比87億円の増であり、うち49億円は、子育て、高齢者、障害者福祉の推進、病床の確保などの施策を充実するものです。また、令和3年度当初予算で緊急対策として中止、延期した事業等についても、改めて優先順位を精査した上で、その多くを予算化しました。病院、道路、公園、学校など区民生活を支える社会資本を形成する事業には、特定目的基金と起債を可能な限り活用し、持続可能な財政運営の堅持に努めていきます。また、昨年12月、国の補正予算の成立を受け、コロナ禍の影響を受けている方々への支援を早急に実施するため、今年度5度目となる補正予算を臨時会に提案し、全会一致で可決して頂きました。

新型コロナウイルス感染症対策

●感染拡大の防止と医療提供体制の充実

ワクチン接種は、先月末までに約86%の方が2回目接種を終えています。なかでも、高齢者の接種率が23区最高の約95%にのぼっていることは、「練

馬区モデル」の成果であると、誇りに思っています。

昨年12月、医療従事者や高齢者施設入所者の3回目接種を開始しました。国の当初8カ月としていた接種間隔の前倒し方針を受け、区は、一般高齢者を7カ月として、23区で最も早い、先月6日に開始し、今月からは、これを前倒して6カ月としました。64歳以下の方についても6カ月とします。

また、保育士や小中学校の教員等は、在勤者も対象として、今月から実施しています。5歳から11歳までの小児への1回目接種は、3月の開始に向けて準備を進めています。

個別接種は、引き続き約350の診療所の協力を得て、今月から開始しました。集団接種は、現在11カ所の会場を16カ所まで拡大するとともに、土日・夜間等のニーズにも対応し、現役世代や若年層が利用しやすくします。「練馬区モデル」を更に進化させ、「いつでも 近くて 安心な」ワクチン接種を実施していきます。

昨年9月、かかりつけ医等の健康観察、在宅療養支援、酸素・医療提供ステーションによる「3つの柱」の取組みを構築しました。

先月末、都は、重症化リスクが低く症状の軽いや無症状の方について、療養者自身で健康観察を行う方式を導入しましたが、区では、医師会や薬剤師会と改めて協議し、引き続き、かかりつけ医等による健康観察を行うことを確認しました。

2面へ続く